ＩＴ導入、飛躍のチャンス

ＩＴＣ―Ｐｒｏ東京・谷巌代表理事

中小企業こそＩＴ導入によって飛躍するチャンスは大きい。しかし、効果をあげるどころか失敗に終わるケースも多々見られる。「途中で挫折した」「導入したが全体の3割くらいの機能しか使っていない」「新しい事業や取引形態の変化に対応できない」といった声は、よく耳にする。

原因ははっきりしている。企画的な仕事を進める力（プロジェクトマネジメント力）が不足しているからだ。その結果、外注に丸投げしたり、経営感覚のない現場担当者が現状通りのオペレーションを要求したりして漂流する。

ＩＴＣ―Ｐｒｏ東京は、経済産業省の推進資格であるＩＴコーディネーターを中心に、各分野の実務的なプロが会員となっている。失敗経験のある企業がいろいろ探しあてて、訪れるケースが多い。

中堅・中小の現場から

属人性排し組織で仕事を

一度失敗しているから、我々の話が通じて「よく分からないけれど、やってみよう」と思ってもらえる。

「駆け込み寺みたいだね」と言われることもある。つまるところ我々は「経験」を売っているのだと思う。自社だけでは10年たっても経験できないような仕事のやり方を売っている。

「ＩＴ導入が目的ではなく属人性を排し、組織的に仕事ができるようにする」「データ経営を実践することによって強固な企業体質にする」ことを目的にしている。プロジェクトを通して、経営者と一緒になってリーダーを育てることもある。

中小企業は経営者の世界観によって大いに左右される。そこで、東京中小企業家同友会の場で「中杉ＩＴ応援隊」という例会を長年開いている。どちらかというとＩＴに疎い経営者に対し、「理解できなくてもいいからＩＴの話題をシャワーのように浴びていればなんとなく感覚がつかめるようになる」という趣旨で行っている。

２０２３年は初釜を開催してみた。キーワードは「原点回帰」。ＩＴを入り口として、経営陣も従業員も働きやすくなる世界観を中小企業の経営者とともに探るのが狙いだ。

中小企業のＩＴ導入に際し重要なことは「自社の特徴に合ったシステムにする」ことだ。自社の競争力を高めるためのシステムという判断基準のもと、強みをさらに尖らせていくアプローチが必要になる。

強みでないところは汎用的なものを使って効率化していくという柔軟な発想・対応で決めていけばいい。そういうシステムを作ることによって、半数の企業が淘汰されるという声も聞かれる大廃業時代を生きのびる成長企業になる。何か新しいことを始めたいときにも素早く対応できる体制が整う。人を生かし、成長していく企業の経営者たちとの真剣な交流が一つずつ増えていくことを楽しみにして今後も進んでいきたい。

＝随時掲載

《会社概要》

▽本　　社	東京都渋谷区
▽事業概要	中小企業向け総合・ＩＴコンサル
▽設　　立	2017年８月
▽会 員 数	約150名
▽売 上 高	非公開

2023年は初釜を開催し、経営者とともに世界観を広げた

2023年（令和5年）5月29日 月曜日

許諾番号 30093796　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

ⓒ日本経済新聞社　無断複製転載を禁じます。

日本経済新聞社は、記事内容により、特定の企業・団体や商品・サービスの購入・投資等を推奨するものではありません。